

サハリン事務所現地レポート

2019年4月

(件名) 観光庁サハリン訪露ミッション

報告者：主査 出野 翔大

4月16日から19日にかけて行われた、観光庁による官民サハリン訪露ミッションに同行したので報告する。

本件はロシアへの日本人旅行者拡大支援に向けた調査事業。1月に日露首脳会談において表明された、相互訪問者数を2023年までに合計40万人に倍増させるという目標に向けたもので、今夏には官民共同企画「サハリン大自然の旅」を実施することが決定している。今回のミッションには観光庁の他、日本政府観光局、日本旅行業協会、旅行会社、航空会社などから26名が参加。

初日はコルサコフ市内（サハリン島南部の港町）にて、展望台から市内景色と旧拓殖銀行大泊支店の外観を視察。ユジノサハリンスク市内では、まずロシア正教会を視察。この極東一大きいロシア正教会では鐘楼まで登ることができ、実際に鐘の音を鳴らす体験も行った。その他、サハリン州立郷土博物館、サハリン鉄道歴史博物館の観光資源を視察した。

サハリン州政府との意見交換会では、観光庁金井審議官を中心としサハリン州側に対して、今夏企画ツアーの充実について協力を求め、ポドゥシバロフ副大臣からは観光分野での協力を歓迎する意向が示された。またサハリン州からは観光資源のプロモーションを、日本サハリン間を就航するオーロラ航空からは自社プレゼンが行われた。

2日目は、北海道センターに来訪され、施設見学と観光案所「Go Sakhalin」を視察。ウズモーリエ（ユジノより車で1時間半北上）ではカニの販売所を、帰りはスタロドゥプスコエに立ち寄り宮沢賢治「銀河鉄道の夜」ゆかりの栄浜駅舎跡を、ドリンスクでは旧王子製紙の工場を視察。天候が悪く回ることができない場所もあったが今夏予定されるツアー動線を確認することができた。ユジノサハリンスクでは複数のホテルとお土産ショップを視察した。

夜は、在ユジノサハリンスク日本国総領事館夕食会に参加。ミッション団とサハリン州政府、現地観光会社との間で初日に行った意見交換会の続きが開かれていた。

一団は最終日にユジノサハリンスク市内にて「山の空気」展望台や市場、ショッピングモールを視察し日本へ帰国した。

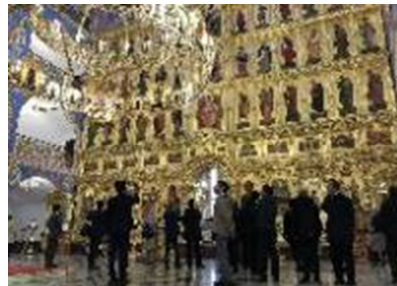
参加者たちからは、今回の視察により具体的にイメージできていなかった観光像を掴むことができた、夏のツアー実施に向けた改善点や課題を把握できた、などの声が聞かれた。ツアー実施が単発で終わらぬよう、継続した日本とサハリン州との意見交換・協力が必要だと感じた。在住者としては、サハリンには自然がふれており、観光資源は魅力的に感じるが、日本向けのツアーには色々手を加えていく必要があると考える。

■官民共同企画「サハリン大自然の旅」概要

2019年6月～9月にかけて、1ツアー20～40名、合計400名を送り出す計画。内容はタラバガニなどの海産物を中心とした食事、旧樺太時代の史跡などを巡るもの。



コルサコフ視察



ロシア正教会



樺太時代からある郷土博物館



意見交換会の様子



ユジノサハリンスクのレストラン